

《大熊 公平》 協働のまちづくりにつ いて

問 ① 区画整理事業等によ
り、アパート、集合住
宅入居者の自治会への加入
率が低下し、地域コミュニ
ティの衰退、犯罪抑止力の
低下が懸念される。その現
状と問題点をどう把握して
いるか。

答 ② 自治組織活性化のための
支援制度が環境、防犯、交
通、防災の4メニューであ
るが、実績が少ない理由で
予算を減少するのは疑問が
残る。使いやすい制度に見
直す必要があると思うが、
どうか。

問 ③ 総合計画にNPO・ボラ
ンティア団体の活動が市民
主役のまちづくりに必要と
位置付けられ、全市的なボ
ランティアネットワークの
形成を挙げているが、早期
形成のため、現在どのよう
な取り組みを行っているか。

答 ① アパート、マンション
に自治会をつくりにつ
くいる現状であるが、清掃活



自治組織活性化支援事業で落書きの消去作業

平等を基本に
メニューの見
直しを考えて
いきたい。

答 ③ NPOは市
内に21団体あ
り、きらめき
プラザを拠点
に岡山県全体
のネットワー
ク化がされて
いる。NPO
・ボランティア
団体は協
働のまちづく
りのパートナー
である。ネ
ットワーク化
は、岡山県や
総社市社会福
祉協議会と連

携して、窓口の一元化や情
報発信、さらに人的ネット
ワークの平常時構築なども
視野に検討していきたい。

(市長)

中心市街地活性化につ いて

問 郊外への大型店舗の
進出で中心市街地の衰
退に歯止めがかからない状
況であるが、大型店舗の進

出に対する見解はどうか。

答 大型店舗の進出は、
地元業者と共存共栄し、
本市の企業や商店を侵犯し
ないのが基本原則。もし来
るのであれば、共存共栄が
できるかどうかを検討し、

《服部 剛司》

9月議会の提案説明 について

問 ① 高梁川新架橋は広域
的な道路の一部である
ので、倉敷船穂真備総社線、
酒津の大橋が動き出す時期
まで、財政逼迫の現状から
も平成24年まで着工を待つ
べきと考えるがどうか。管
理も国県に見てもらおうなら
約束を先にとつてから着工
すべきと考えるがどうか。

答 ② 休日夜間の救急救命体制
の完備はどうなるか。医師
会へ願いや本音を遠慮なく
言って、具体的な内容を示
してほしい。

問 ③ 人事考課制度は人が人を
評価するので、使い道によ
っては反対の効果も考えら
れる。人材育成がどのよう

大型店舗内への地元店出店
のバックアップなど、ルー
ルづくりのバックアップに
取り組んでいきたい。(市長)

◇

このほか、情報化の時代、
市民サービスについて質問
しています。

に進むか、内容を示してほ
しい。

答 ① 平成18年3月議会の
12対11で着工というこ
とになった時点で、国県で
の架橋は消えた。市を二分
する議論に対し、一体感を
もって進めるため、終止符
を打たなければならぬ。

倉敷の動向を少し待ってみ
ることも意見の一つ。しか
し、国の補助や合併特例債
で行える架橋は、今の財政
状況を考えたとき、進める
べきと提案したい。

答 ② 初期救急のあり方は遅々
として進まないが、本市が
負担する金額の問題、開所
時間、人員、看護師の確保
等、医師会の協議のテーブ
ルに載っている。今後とも医
師会との信頼関係のもとで
結論を出していきたい。

消防(救急車)行政について

問 ① 将来、救急車の有料
出動を考える時期に來
ていると思うがどうか。

答 ② 本場に救急車が出動すべ
きかどうかを救急救命士等
が確認して出動すべきと考
えるがどうか。

答 ① 有料化にすると、経
済的余裕のない者が利
用に躊躇したり、公共機関性
を逸脱した利用が行われたり
する危険性がある。有料化は
市独自に判断できない。国で
は、救急需要に関する検討会
で民間救急車の活用、救急有
料化も選択肢の一つと考えて
いるようである。(市長)

② 明らかにいたずら、誤報、
問い合わせといったものが
結構あり、出動はしていない
。全国では通報内容での
判断を誤って大変な事故を
起こしたケースもある。ま
ず救急隊は現場に行き、慎
重に対応していくことが重
要と考えている。(消防長)

◇

このほか、県財政につい
て質問しています。

《渡邊 繁雄》

新たな交通網整備につ いて

問 ① 3月議会の名木田議
員の一般質問で、バス
路線の維持経費及び高齢者
バス・タクシー料金助成事
業をゼロベースで考えて、
利用者にも負担をしてもら
い、市内全域に乗り合いタ
クシーを導入してはどうか
という提案があったが、そ
の後どのような内容で検討
を行ったのか。

答 ② 乗り合いタクシーを導入
した場合、試算では多少負
担は増えるが、今の路線バ
スをゼロベースで考えて判
断したらどうか。また、部
分的に試行運転を行うなど、
子どもたちの通学の足の確
保にもつなげてほしい。弱
者、辺地に住んでいる方へ
の足の確保をどう考えてい
るのか。

答 ① 平成19年度で9バス
路線の維持経費に22
44万円の補助金を支出し
ているが、利用者が少なく、
一部廃止の路線もあり、現

在7路線となつている。ガ
ラス張り公開市長室でも公
共交通機関の確保を要望す
る声が多いことから、よく
勉強し、議会に相談したい。
また、高齢者バス・タクシ
ー料金助成事業は、現在交
付対象外となつている日中

独居老人を含めて総合的に
判断し、改正していきたい。
② 現在の主要バス路線を維
持した上で、路線バス等の
ない地域の公共交通機関を
確保するために、引き続き
努力していきたい。(市長)

農業委員会としての 農業振興建議について

問 農政は難しい局面を
迎えている。農業経営
の確立を図るため、農業委
員会はどのように市長に対
し、建議をするのか。

答 低迷する米価、肥料
や燃料の高騰がもたら
す経営悪化、後継者不足に
よる荒廃農地の増大、食料
自給率の低迷、食の安全等
の問題に対し、農業委員
会は身近にできる問題から取
り組み、農家の意見を聞き
ながら、関係機関と連携し
て建議の必要性に対応して
いきたい。(農業委員会会長)

◇

このほか、市長の政治姿
勢、教育委員会としての教
育の基本、選挙管理につい
て質問しています。



山手ふれあいタクシー。弱者等の足の確保が急がれる